

KU “東北” ボランティア駅伝について

石 積 勝 (第一部文責)

佐 野 恭 平 (第二部文責)

本稿の構成

本年3月11日の東日本大震災以降、神奈川大学ではこの未曾有の惨事に対して様々な形で被災地支援活動に取り組んでいる。本稿を執筆中においても多くの活動は継続中であるが、その取り組みのひとつとである学生主体の「KU “東北” ボランティア駅伝」について紹介してほしいとの関係者からの依頼があった。もとより今次の「KU “東北” ボランティア駅伝」は、神奈川大学横浜、湘南ひらつか両キャンパスで展開する、全学的な、しかも現在進行中の取り組みであり、その中間報告、最終報告をしかるべき時期に総合的包括的に行うことが予定されている。しかし、せっかくの要請でもあり、この時点での石積の思いを述べ、ついでこの取り組みに参加した修士課程在籍中の佐野恭平氏の体験レポートを寄稿することにした。(注1)

本稿は二部構成となっている。第一部では石積が今次のボランティア駅伝の背景となる基本的な考え方、特に現代の大学教育、あるいは本学における実学の意味について簡単に触れる。第二部では佐野氏による体験レポートが掲載される。本来は第一部と第二部の間を埋める論述が必要である。しかしその部分については、今後予定されている本学全体の東日本大震災への取り組みに関する本格的総括あるいは報告書に譲ることにする。すなわち実学教育としての今次の取り組みのそれ自体の内容とその狙い、あるいはその具体的展開に関する様々な考察は本稿では欠落している。時間的制約、さらには現在進行形中の取

り組みであることをご理解いただき、その点についてはご容赦いただきたい。したがって第一部の論述と第二文の報告との間に飛躍があるように思われる読者諸氏もおられることは容易に想像できる。しかしそれにもかかわらず、この時点でこの「KU “東北” ボランティア駅伝」の取り組みの基本的な考え方の一端と、その具体的な経験レポートを掲載することにはそれなりの意味があるであろうと判断した次第である。従って本稿は、以下の二部構成になっている。

第一部 教育活動の一環としてのボランティア活動 石積勝

第二部 KU “東北” ボランティア駅伝 活動報告書 佐野恭平

(以上文責 石積勝)